



迎春

“ぬくもりと豊かさを
実感できる明るい未来づくり”の
実現に向けて

鹿屋市長
中西 茂



荒平天神沖からの日の出

新春のごあいさつ

新年あけましておめでとうございます。市民の皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、平素より市政運営にご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスへの対応について、本市ではワクチン接種が関係者のご協力のもとスムーズに進み、対象者の9割近くの市民の皆様が2回目の接種を終えました。3回目接種についても、引き続き市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

さて昨年は、5年ごとに実施される国勢調査の結果が発表され、本市人口は県全体と同様に減少しましたが、国が公表する将来推計人口を上回り、一人の女性が生涯に生むと見込まれる子どもの数も、全国10万人規模の都市の中で第1位と、高い水準を維持しております。

本市においては、高校生までの医療費の無償化や、愛称が「あそVIVA!」かのやに決定した子

育て交流プラザの開館日の拡大、小・中学校に1人1台のタブレット端末の配備、地域で子どもたちを育てる寺子屋事業等に取り組みなど、子育て・教育環境の充実に努めているところです。

また、移住サポートセンターを中心としたU・イターン施策の充実や本市出身お笑い芸人のPR動画による魅力発信等に取り組み関係人口の拡大を図っているところです。

昨年開催された東京2020オリンピック等では、本市ゆかりの選手たちが世界を舞台に活躍したほか、本市が活動拠点の2つのプロスポーツチームも好成績を収めるなど、多くのアスリートが夢と感動を与えてくれました。

産業分野では、市内企業が地域資源を生かして開発した商品等が国内外で高い評価をいただきました。また、県肉牛枝肉共進会では市内畜産農家が2連覇を果たすなど、今年鹿屋島で開催予定の「全国和牛能力共進会」に向けて機運が高まっております。

このほか、水産物の新たな加工処理施設や誘致企業の工場増設の

着工、本市初のサテライトオフィスの開設などもあり、新規雇用の創出、ひいては地域産業の活性化につながるものと考えております。

広域交通網においては、東九州自動車道の鹿屋串良JCTから志布志ICまでの開通や大隅初の福岡直行高速バスの運行開始など、交通アクセスが向上し、人・物の交流が加速するものと期待しております。

さて、今年の干支「壬寅」は、一説によると「陽気を孕み、春の胎動を助く」、すなわち冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しく生まれることを表します。

私たちは、新型コロナウイルスの感染拡大により、未曾有の危機を経験し、じつと耐えてきました。今年は、この難局を乗り越えて、市民一人ひとりが幸せの花を咲かせることができるよう、全力を挙げて取り組んでまいります。

結びに、令和4年が市民の皆様にとりまして、明るく幸せに満ちあふれた一年になりますよう心から祈念申し上げます。新春のあいさつといたします。

明日の鹿屋をつくる取り組み



誘致企業の工場増設が完了予定であり、新たな雇用に期待されます。



市内のプロスポーツチームは今年も新たな舞台・体制で全国に挑みます。



10月の「全国和牛能力共進会」では鹿屋島県の団体2連覇が期待されます。

昨年、鹿屋で行われた主な取り組み



市内の全ての小・中学校へタブレットを配付し授業で活用しています。



鹿屋串良JCT～志布志IC間の開通で、大隅の交通アクセスが向上しました。



医療関係者等の協力により、ワクチン接種がスムーズに進みました。